



「北白川だより」 学校評価 臨時号

令和3年 2月16日
京都市立北白川小学校
校長 藤林 弘之

『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』
～目標の実現に向け努力する意欲・態度と問題解決能力を培う～



平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、冬休み前の学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つであり、その結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察で、「できている」はA群とB群の合計で、「できていない」はC群とD群の合計で分析しています。

本号では12月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。表面には「学習面」、裏面には「生活面」を載せています。表のAは「よくできている」、Bは「だいたいできている」、Cは「あまりできていない」、Dは「できていない」を示しています。

【後期 学習面】

	児童		A	B	C	D	保護者		A	B	C	D	教職員		A	B	C	D
①	がくしゅうのめあてがたっせいで きている。	前期	50.8%	40.3%	7.6%	1.4%	我が子は、学校で学んだことを身 に付けています。	前期	29.7%	64.0%	5.9%	0.3%	確かな学力が身に付くように授業 を工夫して行っている。	前期	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%
		後期	56.6%	34.7%	7.9%	0.8%		後期	27.8%	64.4%	7.9%	0.0%		後期	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%
②	せんせいやともだちはなしをよ く聞いて、かんがえている。	前期	58.2%	34.0%	6.5%	1.4%	我が子は、人の話をしっかりと聞 いて考えることができている。	前期	23.2%	59.5%	17.0%	0.3%	友だちや先生の話をしっかりと聞 いて考える習慣をつけるように取 り組んでいる。	前期	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%
		後期	43.8%	48.1%	7.8%	0.3%		後期	23.7%	57.4%	18.3%	0.6%		後期	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
③	じゅぎょうちゅうすすんでじぶんの かんがえをひょうげんしている。	前期	40.5%	32.3%	20.4%	6.8%	我が子は、進んで自分の考えを 話すことができている。	前期	22.4%	56.9%	19.8%	0.8%	授業中、子ども達が進んで自分 の考えを伝えるような授業づくり を心掛けている。	前期	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%
		後期	43.0%	40.0%	15.1%	1.9%		後期	24.0%	53.3%	21.8%	0.9%		後期	27.8%	66.7%	5.6%	0.0%
④	よんだり、かいたり、けいさんした りするちからがみについている。	前期	55.8%	31.7%	10.0%	2.4%	我が子には、基礎的な学力(読 む・書く・計算する)が身に付いて いる。	前期	31.3%	57.0%	10.5%	1.1%	基礎的な学力(読む・書く・計算す る)が身に付くように取り組んでい る。	前期	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
		後期	46.2%	33.4%	14.7%	5.7%		後期	30.0%	57.1%	12.0%	0.9%		後期	44.4%	50.0%	5.6%	0.0%
⑤	いえでじぶんからしゅくだいやがく しゅうをしている。	前期	52.3%	34.4%	10.3%	3.0%	我が子は、自分から家庭学習に 取り組むことができている。	前期	25.6%	43.9%	28.8%	1.7%	家庭学習の習慣が定着するよう な働きかけを行っている。	前期	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%
		後期	32.0%	45.5%	19.0%	3.5%		後期	24.6%	47.6%	24.3%	3.5%		後期	27.8%	55.6%	16.7%	0.0%
⑥	すすんでどくしょをしている。	前期	52.6%	27.9%	11.7%	7.9%	我が家では、本に親しむことができ る環境を整えている。	前期	32.6%	45.3%	19.3%	2.8%	読書の習慣が定着するような働 きかけを行っている。	前期	11.1%	72.2%	16.7%	0.0%
		後期	42.0%	33.6%	19.5%	4.9%		後期	35.8%	39.9%	20.9%	3.5%		後期	16.7%	55.6%	27.8%	0.0%
⑦	じぶんからすすんでうんどうをし ている。	前期	50.7%	26.6%	15.7%	7.0%	我が子は、進んで運動に取り組 んでいる。	前期	30.9%	38.0%	26.6%	4.5%	進んで運動できるように工夫した り、声をかけたりしている。	前期	16.7%	61.1%	22.2%	0.0%
		後期	39.4%	27.7%	20.4%	12.5%		後期	32.5%	39.7%	25.2%	2.5%		後期	22.2%	50.0%	27.8%	0.0%

【①学習のめあてが達成できている】

【③授業中進んで自分の考えを表現している】の項目より

児童の①の項目については、「できている」としてみると前期と変わらないものの、B群からA群に約6%シフトしている結果となりました。日々の授業で、めあてと振り返りを意識したり、スマーブルステップで「分かる」ことを大切にしたり、授業の展開を工夫してきた結果であると考えられます。

③の項目は、前期と比べ、児童の「できている」が約10%増えています。1年前(R1年度後期: 75.1%)と比べても向上していることから、学級に慣れてきたことはもちろん、コロナ禍でも可能な限り話し合いや表現活動を取り入れてきた成果が出てきていると考えられます。しかし、まだ2割弱の児童が「できていない」と回答しています。「聞く」「話す」機会をセットで増やしたり、途中まで完璧ではなくてもまずは自分の考えを書けるように学習を進めたいと考えています。

【④読んだり、書いたり、計算したりする力が身に付いている】

④の項目について、前期と比べ、「できている」と回答している児童は約1割減少しています。①の項目で、授業では約9割の児童が「できている」と感じていることとのギャップが生じ、学習した時には分かったと思っていても、定着まで至っていないことになります。

本年度、4、5月の臨時休業で授業の開始が遅れたため、1コマ40分授業になりました。1コマ、たった5分の短縮ですが、その5分間の積み重ね、また年度内に履修しきるために授業をコンパクトにしたこと、さらには、コロナ禍で協働的・体験的な学びが制限されたことなどが原因として考えられます。

まだコロナ禍が続く中、学習の定着化を進めるためには、帯時間の活用、既習事項を振り返りながらのスパイラル的な学習、宿題の活用等、1コマの授業以外にも工夫し、学力の定着を目指したいと考えます。

【⑥進んで読書をしている】

【⑦自分から進んで運動をしている】の項目より

⑥の項目については、児童のA・D群が減少し、B・C群が増加しています。単元によっては、時間割に図書館利用の時間を組み込む等、本を身近にするような取組を行っています。しかし、履修を進めることを優先にすると、なかなか継続的に図書館利用できていないことが考えられます。

⑦の項目については、「できている」と回答した児童が、前期からさらに約1割減少しています。保護者・教職員の結果も高くなないことから、密や体調に敏感になっているコロナ禍では、安全面を考えるとなかなか積極的にはなりきれないもどかしさがあるのではないかと推測されます。

⑥⑦とも、今年度の変則的な校時表で昼休みがしっかりとれていないことも原因として考えられ、月に1回程度、ロング昼休みを設定するなど、改善に向けて取り組んでいます。

【後期 生活面】

	児童		A	B	C	D	保護者		A	B	C	D	教職員		A	B	C	D
①	じぶんからすんでもいさつをしている。	前期	56.6%	34.7%	7.9%	0.8%	我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	前期	37.7%	57.2%	4.8%	0.3%	自分から進んで気持ちのよい挨拶ができるように働きかけている。	前期	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%
		後期	60.2%	28.7%	8.8%	2.2%		後期	35.3%	59.0%	5.7%	0.0%		後期	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%
②	いえやがっこうのルールをまもっている。	前期	43.8%	48.1%	7.8%	0.3%	我が家では、家や学校のルールを守るように働きかけている。	前期	32.0%	63.7%	4.2%	0.0%	家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	前期	55.0%	45.0%	0.0%	0.0%
		後期	38.1%	50.0%	9.4%	2.5%		後期	30.5%	64.4%	4.4%	0.6%		後期	68.4%	26.3%	5.3%	0.0%
③	そうじやかたづけをきちんとしている。	前期	43.0%	40.0%	15.1%	1.9%	我が家では、掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	前期	14.8%	48.0%	34.9%	2.3%	自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	前期	45.0%	55.0%	0.0%	0.0%
		後期	42.5%	39.2%	13.5%	4.7%		後期	16.9%	43.6%	36.6%	2.9%		後期	52.6%	47.4%	0.0%	0.0%
④	こまつたことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。	前期	46.2%	33.4%	14.7%	5.7%	我が家では、子どもの話をしっかりと聞くようにしている。	前期	24.6%	66.0%	9.3%	0.0%	子ども達に向き合い、しっかりと話を聞くようにしている。	前期	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
		後期	45.2%	31.3%	16.3%	7.2%		後期	24.7%	67.1%	7.9%	0.3%		後期	47.4%	47.4%	5.3%	0.0%
⑤	だれにたいしてもていねいなことばではなしている。	前期	32.0%	45.5%	19.0%	3.5%	我が家では、丁寧な言葉づかいで話すように心掛けている。	前期	11.9%	61.8%	24.6%	1.7%	誰に対しても丁寧な言葉遣いで話すよう指導するとともに、自らも実践している。	前期	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
		後期	22.9%	41.4%	25.4%	10.2%		後期	16.4%	61.2%	21.1%	1.3%		後期	47.4%	52.6%	0.0%	0.0%
⑥	にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	前期	42.0%	33.6%	19.5%	4.9%	我が家では、苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	前期	23.2%	62.3%	14.4%	0.0%	子ども達が、苦手なことにも前向きに取り組めるような手立てを、常に意識して実践している。	前期	26.3%	68.4%	5.3%	0.0%
		後期	38.6%	30.0%	25.3%	6.1%		後期	21.8%	66.6%	10.7%	0.9%		後期	42.1%	47.4%	10.5%	0.0%
⑦	じぶんのよいところがいえる。	前期	39.4%	27.7%	20.4%	12.5%	我が家では、子どものよさを認め、伝えるようにしている。	前期	34.6%	59.2%	6.2%	0.0%	子どものよさを認め、積極的に伝えるようにしている。	前期	45.0%	45.0%	10.0%	0.0%
		後期	38.1%	22.1%	22.7%	17.1%		後期	36.6%	57.7%	5.7%	0.0%		後期	57.9%	36.8%	5.3%	0.0%

全部の項目で、「できている」と回答した児童は、前期よりも数%程度の減少傾向となりました。保護者・教職員の回答は、前期と後期で大きな変化は特にありませんでした。

その中でも、特に、【⑤誰に対しても丁寧な言葉で話している】については、児童の「できている」が14%程度も減少していました。興味深いことに、保護者・教職員は前期よりもむしろ丁寧な言葉を意識しているという傾向でした。1つの考えとしては、丁寧ではない言葉を無意識に使っていた児童が、丁寧ではないことに気づいたことが挙げられます。保護者や教職員の声かけ、時には友だちとのトラブルを通して、他者へ伝えるためにはどうしたらよいかを考える機会になっているのではないか。いろいろな年齢、立場、環境の人たちとのコミュニケーションを通して、より気持ちの良い言葉遣いをできるようにこれからも取り組んでいきたいと考えます。

また、【⑦自分の良いところが言える】については、児童の「できている」が約60%と全項目で最も低い結果でした。前期と比較しても約7%減少しています。一方で、保護者は約94%、教職員は約95%と高い回答でした。大人は良さを積極的に伝えるようにしているにもかかわらず、児童自身は自分の良さが言えないことになります。つい、結果について褒めたり課題にしたりしますが、結果は操作しにくいために、行動について声をかけたり目標にしたりすると良いそうです。目標のレベルや達成感、できた経験、大人の褒め方やタイミング等、児童に響くように⑥の項目とも連携しながら工夫していきたいと考えます。ご家庭でも、引き続きよろしくお願ひいたします。

コロナ禍で、オンライン化がピックアップされ、家にいてもさまざまな情報を得られるようになりました。その反面、スマートやタブレット等を使って、家にいても楽しめる方法を知った児童も多いと思います。そうなると、②のようなルールを守ることが難しくなり、学習面⑤の結果のように宿題にも悪い影響を与えることが考えられます。また、インターネットすぐに答えを得られる環境に慣れて、粘り強く取り組む経験が減り、⑥の低下に結びつくことも懸念されます。アナログとデジタルの融合のバランスが難しい中、コンピュータやオンライン化の長所・短所をしっかり理解し、上手に活用していくように、今後もご家庭と連携して取り組んでいきたいと考えています。

今回のアンケートでは、保護者の皆様に14の項目について振り返って書いていただきました。一部になりますが、紹介させていただきます。

- 友だち間の言葉づかい等が気になることもあります。トラブルにつながらないかが心配です。
- 言いにくいこと（困っていること）を黙っている傾向があって、難しいと感じています。
- 気持ちの切り替えを学び中です。先生方やクラスのみなさんの協力のもと、日々成長しています。少しずつ自分の考えも言えるようになってきました。本当にありがとうございます。
- 自ら進んで片づけや身支度などができるよう、環境をつくることも大切だなと思いました。
- 寝る前の絵本の読み聞かせを続けている効果もあるのか、自分から読書をたくさんするようになりました。
- 生活に関する項目は、親として心がけてはいますが、子ども自身の受け取り方は別だと思いました。
- 持ち物や勉強についてどのように伝わっているのか、学校での子どもの様子も聞けたらいいなと思います。
- 1日の生活を毎日リズム良くしています。
- 少しずつできるようになってきて、嬉しいです。
- つい手助けをしてしまうため、子どもが積極的に気付いて行動できるような声かけをしようと思います。
- 家庭内ではできているが、学校ではできていないこともあると思います。担任に教えてもらい、促すようにしています。
- コロナ禍で、運動については、今年度、難しかったです。新体力テストで、子どもがどの程度かを知りたいです。
- 忙しさを理由に子どもの話をしっかり聞けていないときがあると、改めて気づきました。
- 日頃から、些細なことでもコミュニケーションをとることにより、子どもが話しやすい環境で話をしてくられることが増えました。

保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、3月18日の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。子ども達の成長のために学校と保護者が連携してよりよい取組を進められますよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。